

## 麻酔を使った歯科診療 ～笑気吸入鎮静法・静脈内鎮静法・全身麻酔法～

歯科で“麻酔”といえば、歯を削る時に痛みをとる『局所麻酔』をイメージされると思います。麻酔は他にも、歯科診療に対する不安感や恐怖心が強い場合や心身の障害により歯科診療を受けることが難しい場合に精神鎮静法や全身麻酔法といった麻酔法があります。今回は、当センターで行っている麻酔法についてご紹介いたします。

### 安全な麻酔を行うために



- 事前に患者さんの**全身状態**を問診し、必要に応じて医科に対診を行います
- 生体情報モニターを使い、常に**血圧、脈拍、血中の酸素飽和度、呼吸**を観察します
- 静脈内鎮静法、全身麻酔法では麻酔専門の**歯科麻酔医**が全身管理を行います

### 笑気吸入鎮静法



低濃度の笑気ガスを鼻から吸い、意識を残したまま精神的な緊張を和らげ歯科診療に対する不安感や恐怖心を軽減する方法です。心疾患や高血圧などの病気により、身体へのストレスを軽減したい方などに有効です。但し、鎮静効果には個人差があります。

### 静脈内鎮静法



麻酔の薬を点滴から入れ、意識を残したまま精神的な緊張を和らげます。脳性麻痺の方で筋緊張や不随意運動が強い場合や口呼吸や鼻づまりにより吸入鎮静法では効果が得られない方、強い吐き気が出る方、確実な鎮静効果を得たい時などに有効です。安全な呼吸の状態を維持するために鼻から酸素を吸入することもあります。診療中の嘔吐による誤嚥性肺炎や窒息を予防するために、処置前の絶飲食が必要です。

### 全身麻酔法

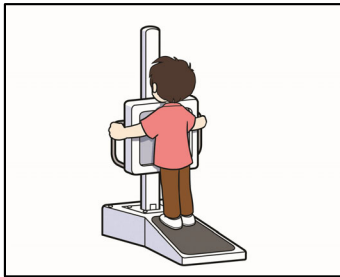


麻酔の薬を点滴や酸素マスクから吸うことにより、完全に意識や動き、痛み、反射が無い状態にする方法です。多数のむし歯の集中的な治療や口の中の外科的な手術が必要な方、笑気吸入鎮静法や静脈内鎮静法では歯科診療が難しい方などに有効です。安全な呼吸の状態を維持するために「気管挿管」（気管にチューブを入れ空気の通り道をつくること）を行います。静脈内鎮静法と同様、処置前の絶飲食が必要です。また、日帰りで全身麻酔法を受けることができます。

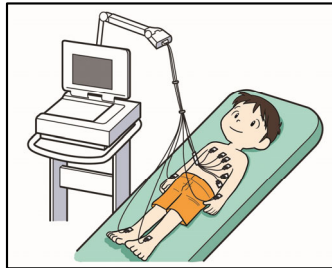
## 歯科診療時の配慮について

全身麻酔薬等を使用した歯科診療は、歯科診療に対する患者さんのストレスを回避することができます。しかし、実際には見慣れない器具の使用や患者さんにとって初めて経験することもあります。そのため、患者さんの不安や恐怖心を軽減し、安全な歯科診療を提供できるよう、当センターではいくつかの配慮を行っています。

### 絵カード



胸部X線



心電図

これから行うことを伝えるため、絵カードを使用します。上記2枚の絵カードは、全身麻酔法の術前検査時に使用します。患者さんは、言葉での説明より、視覚からの情報の方が理解しやすいことがあります。

### チェンブランケット®



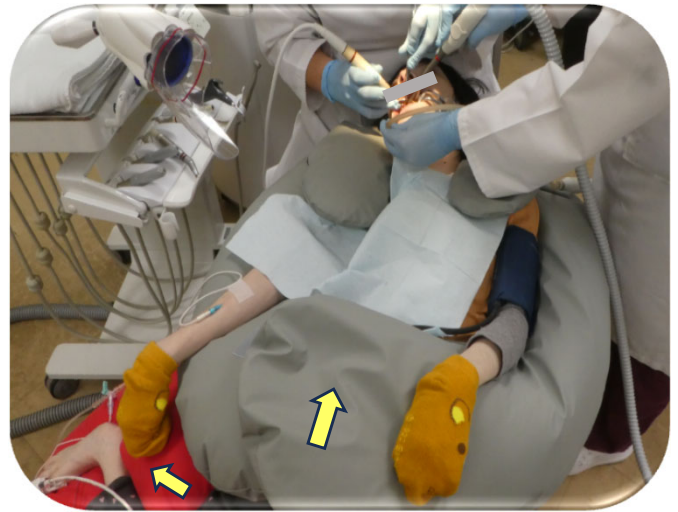
チェンブランケット® (↑) は、スウェーデンで生まれました。内蔵式のチェーンが身体にフィットし、適度な重みがあり安心感が得られます。笑気吸入鎮静法の際にも、チェンブランケット®を使用することがあります。患者さんからは、『気持ちが良い』『気持ちが落ち着く』との感想が寄せられています。

### 麻酔用マスクのトレーニング



全身麻酔法で使用する麻酔用マスクの練習を行います。繰り返し練習を行い、麻酔用マスクは、痛くない、怖くないことを、患者さんへ伝えます。

### ビーズクッション



診療台で安定した姿勢を保ち、過度な筋力の緊張を和らげるために、ビーズクッション (↑) を使用します。写真は、脳性麻痺の患者さんが、静脈内鎮静法の際にビーズクッションを使用しているところです。身体の変形や拘縮に合わせ、クッションを調整することができます。

## 地域の歯科医院、地区口腔保健センターとの連携



親知らずの抜歯が必要、多数のむし歯があるなど、地域の歯科医院や地区口腔保健センターでの歯科診療が難しい場合、紹介状を持参していただき、当センターで全身麻酔法や静脈内鎮静法で歯科診療を行なうことができます。治療終了後は紹介元の歯科医院や地区口腔保健センターに戻り、定期健診やお口のクリーニングなどを行っていただけます。また、再び治療が必要となった場合は、当センターに受診することができます。このようにして、当センターは地域の歯科医院や地区口腔保健センターと連携を図っています。